

愛犬・愛猫の健康管理

小さな「家族」の微妙な変化を見逃さないために。
健康診断から暮らしの注意点まで、この機に考えたいペットを守る意識と備え。



診断から外科治療、術後管理までをカバーする体制で、各地から紹介症例も寄せられる茶屋ヶ坂動物病院。ミッションに掲げる「FRONTIER」には、技術革新・獣医学教育・研究をつなぎ、動物の健康と福祉、飼い主の心に寄り添う総合拠点でありたいという思いが込められている。

先生が獣医師として仕事を始めた頃と比べて、飼い主さんたちの意識に変化は感じられますか。

三原 私は獣医師として20年ほどの経験がありますが、大きく変わったと思います。というのも、以前は動物の健康維持や病気の診断・治療に、今ほど費用や手間をかけることが一般的ではありませんでした。それが、最近では「ペットにも健康診断が必要だ」という「飼い主さんが増えていることを実感します。少しでも長く一緒にいたい」という愛情が、健康管理への意識向上につながっているのだと思います。

近年はペットにも健康診断を受けさせるという動きが見られますね。

三原 動物には、たとえ獣医師が診ても、見たり触れたりするだけでは分からない病気がたくさんあります。とても健康診断を受ける必要はないと思いますが、現在の体制を支える礎となっています。

主に心臓の診療に力を入れてきた理由は。

三原 たとえば小型犬では、心臓の病気を患うことが少なくありません。心臓外科は、術者だけでなく助手、器具助手、麻酔体外循環など、複数のスタッフが連携するチーム医療が求められる分野です。当院では開業当初から、心臓手術のための技術や人工心肺装置の使い方などの研究に取り組んできました。そうした地道な積み重ねが、現在の診療体制にもつながっています。

小型犬の心臓病とは、どんな病気が見られるのでしょうか。

三原 年齢を重ねたチワワやマルチーズ、トイプードルなどでは、心臓の弁がうまく働かず、血液の逆流が起こる心臓弁膜症の一種が見られることがあります。特に小型犬では注意したい病気のひとつで、近年は薬で状態を管理する方法も進んできました。ただ、病気の進行によっては外科的な治療が検討される場合もあります。大切なのは、早い段階で状態を把握し、その子に適した選択肢を考えることです。

高度医療に取り組む動物病院という印象から、気軽に受診するにはハードルを感じる飼い主さん多いそうです。

三原 確かに、「この程度のことと相談してよいのでしょうか」と遠慮される方もいらっしゃいます。ただ、もともと当院は一次

康そうに見える子でも、検査をするとからかの所見が見つかることもありますので、健康診断には意義があると思います。病気によっては、症状が表に出た時点でかなり進行していることがあります。特に心臓病は、重症化すると命に関わりかねません。肺に水がたまるとような状態では、緊急的な管理や治療が必要になる場合もあります。だからこそまず、具合が悪そうだなと感じた時には、できるだけ早く状況を把握することが大切です。

人間なら言葉で伝えることができるが、犬や猫は自身の体調不良を具体的に訴えることができない。健康診断は、仮に何も見つからなくても、「これが元気な時の状態だ」と知る手段ともなるのだ。

室内でペットを飼う際、飼い主が知っておきたい注意点はありますか。

三原 「室内飼育だからノミやダニ、蚊が媒介する病気の予防は必要ないのでは」と考える方もおられますが、戸建住宅あるいは集合住宅の低層階にお住まいだったり、少しでも散歩に出かけたりする場合には、そうしたリスクに触れる可能性があります。また、フローリングは滑りやすく、足裏の毛や爪が伸びていると関節などに負担がかかることも。滑りにくい床を考えてあげることも大切です。特に年齢を重ねると、目が見えにくくなることもありますので、段差や家具の配置にも

地域での取り組みについても教えてください。

三原 名古屋市獣医師会に所属し、獣医師会のさまざまな企画に参加しています。たとえば、動物の保護施設にいる犬や猫が譲渡会に出られるよう、健康状態をチェックする活動などにも関わっています。

院内の雰囲気は。

三原 心臓に病を抱える動物を入院でお預かりしたり、術後の経過を観察したりする場合には、一般的にはあまり見られないような細かな管理が必要になります。重症の動物に対する診断や治療を学びたい、ケアを通じて支えたいという動物看護師たちが勤務してくれていることは、とても心強く感じます。

地域に根ざした診療を基盤に動物医療の知見を未来へつなぐ

地域の動物病院として、今後の運営方針についてはいかがですか。

三原 ペットが病気を患うと、飼い主さんものつらい思いを抱えるものです。獣医師として病気と向き合うことはもちろんですが、「家族の気持ちに寄り添う気持ち」も大切にして、愛犬や愛猫と笑顔で過ごすかけがえのない時間の支えになればと思っています。

先代院長から受け継いできた研究や発信についてはどのように考えていますか。

三原 先代は、培った知見は外部に公表



気を配ってあげてください。

食べ物についてはどうでしょう。

三原 与えるフードの前に、まず拾い食いや誤食に注意してほしいですね。屋内飼育でも、たとえばお風呂場の床に残った水をなめる子もいますが、これには微生物が含まれている可能性があります。また、人間の食事は犬や猫にとっては塩分などが多すぎる場合があるため、欲しがつても安易に与えないことが大切です。

室内でも飼いやすい小型犬によく見られる病気とは

茶屋ヶ坂動物病院として大切にしていることは。

三原 一般に、動物病院は一次診療を担うホームドクターのような病院と、専門的な治療に対応する二次診療施設に大別でき

し、広く社会で役立てるべきだという考えを持っていました。そんな理念を背景に、長く心臓外科の研究に取り組んできた当院では、そのつど論文などにまとめた国内外の獣医師に向けて発信してきました。当院が掲げる「FRONTIER」というキーワードにも、動物医療の最前線で技術革新と教育・研究をつなぎ、動物の健康と福祉に貢献したいという思いを込めています。先代の薫陶を受けた私も、理論を学び、技術を磨く後輩世代の獣医師たちの成長に寄与したい。そのためにも、今後も研究や論文執筆、学会での発表を続けていくつもりです。

ペットの健康を守ることは、特別な医療だけで成り立つものではない。日々の観察、生活環境への配慮、定期的な健康確認、そして病気と向き合う時の冷静な判断。そのひとつひとつが人と動物が共に暮らすペット文化を支えている。動物愛護週間を機に、その「当たり前」の尊さを改めて考える機会としたい。



茶屋ヶ坂動物病院
三原 吉平 院長



初代病院長・金本勇氏の時代から、動物の心臓外科治療技術の研究と開発に取り組んできた茶屋ヶ坂動物病院。世界的に見ても専門性の高いこの分野で、難治性の心疾患も含めて先駆的な実績を重ね、国内外の動物医療の発展に貢献している。

茶屋ヶ坂動物病院
CHAYAGASAKA ANIMAL HOSPITAL

愛知県名古屋市中千種区新西1-1-5 TEL.052-773-1866 9:00～17:30 無休